

令和6年度事業報告、貸借対照表、正味財産増減計算書及び附属明細書
並びに財産目録の承認について

事業報告

I. 全体概要

令和6年度の経常収益額（事業収益、受取会費、受取委託料、補助金等の合計）は78,527千円、経常費用額（事業費、管理費の合計）は78,397千円となり、当期経常増減額（経常収益額－経常費用額）は130千円の黒字となった。

このうち、種苗販売の収益となる事業収益は50,303千円となり、公益事業関係では、ピーマン台木、リンドウの2品目が前年度実績より増収したが、他品目は減額となった。また、収益事業は3,096千円となり、前年度実績より減額となった。全体の事業収益額は53,400千円となり、前年度実績より3,529千円の減収となり、金額ベースで、当初予算比89%、前年度実績比94%となった。

次に、種苗生産・販売のコストとなる事業費は70,826千円となり、前年度実績より7,538千円の減額となり、金額ベースで、当初予算比92%、前年度実績比90%となった。また、光熱水費、租税公課、引当金繰入額等が増額し、委託費、原材料費、資材費、修繕費等が減額となった。

1. 管理運営に関する事業

1) 総会

第62回定時総会及び1回の臨時総会を開催し、上程した議案は全て原案どおり承認された。

[総会の開催]

総会	開催日	場所	議案事項
第62回 定時総会	令和6年 6月25日	JAビル 501研修室	1. 令和5年度事業報告、貸借対照表等について 監査報告 2. 任期満了に伴う役員改選(案)について(別表1)
第1回 臨時総会	令和7年 3月12日	JAビル 501研修室	1. 令和7年度会費及び納入方法(案)について

2) 理事会

3回開催し、総会附議事項等について審議し、附議した議案は全て原案どおり承認された。

[理事会の開催]

理事会	開催日	場所	議案事項
第1回 理事会	令和6年 6月5日	JAビル 503研修室	1. 令和5年度事業報告、貸借対照表等について 2. 任期満了に伴う役員改選(案)について(別表1) 3. 第62回定時総会の開催(案)について
第2回 理事会	令和6年 6月25日	—	1. 役付理事の選定(案)について(別表2)
第3回 理事会	令和7年 2月18日	JAAZM 中研修室	1. 令和6年度収支予算の補正(案)について 2. 令和7年度事業計画及び収支予算について 4. 令和7年度の会費及び納入方について 5. 令和7年度借入限度額について 6. 令和6年度第1回臨時総会の開催について

3) 企画運営委員会

理事会に先立ち、2回開催し、理事会附議事項及び報告事項等について協議した。

[運営委員会の開催]

委員会	開催日	場所	協議事項
第1回 運営委員会	令和6年 5月15日	県総合農試 研修棟	1. 令和5年度事業報告、貸借対照表等について 2. 種苗価格の改定について(報告)
第2回 運営委員会	令和7年 2月5日	県総合農試 大会議室	1. 令和6年度収支予算の補正(案)について 2. 令和7年度事業計画及び収支予算(案)について 3. 令和7年度の会費及び納入方法(案)について 4. 令和7年度借入限度額(案)について

4) 監査

定例の棚卸監査及び帳簿監査が行われた。

監査名	開催日	備考
棚卸監査	令和6年4月1日	令和5年度期末棚卸監査
帳簿監査	令和6年4月26日	令和5年度期末帳簿監査

5) 経営検討委員会等

経営改善関係の会議等が行われ、継続して、経営改善の取組を継続する。受発注システム関係では既存の3つの台帳を結び、入力作業等を省力化するシステムが導入された。

会議名	開催月、開催回数	協議事項
経営検討委員会	令和6年4、5、7、9、11月、5回	1. 経営数値の分析 2. 受発注システムの改善 3. 生産性向上
経営コンサルティング (かんしょ関係)	令和6年10～2月、10回	1. 現場作業実態観測、原価構造・作業詳細分析 2. 収益構造・売上構造分析 3. 作業計画策定の考え方 4. 改善方向性、改善計画検討

2. 種苗生産・供給事業

1) 園芸作物の優良種苗の生産及び安定供給

(1) 宮崎県が育成したオリジナル品種の種苗供給

宮崎県総合農業試験場等で育成された野菜・花きの品種等の種苗の生産及び供給を行った。

① かぼちゃ

黒皮かぼちゃの「宮崎早生2号」を採種し、「宮崎早生1号」、「宮崎早生2号」の2品種について、40袋(600粒/袋)を供給し、供給金額は190千円であった。需要が減少しており、供給金額ベースで、当初計画比77%、前年度実績比93%となった。

② にがうり

「宮崎つやみどり」、「佐土原3号」の2品種を生産し、他2品種を合わせ4品種について、852袋(100粒/袋)を供給し、供給金額は4,052千円であった。需要が微減しており、供給金額ベースで、当初計画比85%、前年度実績比86%となった。

③ ヒーマン台木

県内はもとより県外からの注文が増加している品目で、「みやざき台木5号」及び「みやざきL1台木1号」の2品種を生産し、他2品種を合わせた4品種について、1,059袋(1,000粒/袋)を供給し、供給金額は8,787千円であった。需要が増加しており、供給金額ベースで、当初計画比110%、前年度実績比113%と増収した。

④ スイトピー

「恋かすみ」(試交 25 号)等の 9 品種を生産し、他 3 品種を合わせた 12 品種について、69 袋(800 粒/袋)を供給し、供給金額は 572 千円であった。予約とりまとめ以降の追加注文があり、供給金額ベースで、当初計画比では 575%であったが、前年度実績比では 53%と大幅に減収した。

⑤ デルフィニウム

「ペガサス」、「アルティ」、「ペガ」の 3 品種を生産し、他 4 品種を合わせた 7 品種を 87 袋(1,000 粒/袋)を供給し、供給金額は 1,452 千円であった。需要が減少しており、供給金額ベースで、当初計画比 87%、前年度実績比 86%となった。

(2) 栄養繁殖作物の茎頂培養苗の供給

かんしょ、いちご、らっきょう、ランキュラスの茎頂培養苗を生産・供給した。

① かんしょ

「宮崎紅」、「コガネガン」等の 11 品種の挿苗及びポット苗を供給し、供給金額は 30,538 千円となり、当初計画比 89%、前年度実績比 98%であった。

苗別では、挿苗は 7 品種を供給し、全体供給数は 1,003 千本(当初計画比 82%、前年度実績比 85%)で、供給金額は 25,804 千円(当初計画比 86%、前年度実績比 94%)となった。出荷本数は当初計画より約 22 万本の減となったが、基腐病対策の伴う需要時期の前進化、基腐病の耐病性品種への転換、民間育苗施設の本格的稼働及びキャンセル等が影響したものと思われた。

また、ポット苗は 7 品種を供給し、需要の増加により、全体供給数は 42 千鉢(当初計画比 98%、前年度実績比 117%)で、供給金額は 4,733 千円(当初計画比 109%、前年度実績比 130%)となった。

次に、挿苗の品種別では、「宮崎紅」は耐病性品種への転換等の影響による需要の減少で、供給本数は 275 千本となり、当初計画比 87%、前年度実績比 86%となった。

「コガネガン」は民間育苗施設の本格的稼働及びキャンセル等の影響による需要の減少で、供給本数は 490 千本となり、当初計画比 82%、前年度実績比 77%となった。

また、基腐病の耐病性品種の「みちしずく」(加工用品種)は需要の増加で、出荷本数は前年度より増加したが、計画数量には達しなかった。供給本数は 69 千本となり、当初計画比 70%、前年度実績比 1,161%となった。

さらに、基腐病の耐病性品種の「べにまさり」(青果用品種)は 6 年度から供給開始し、供給本数は 9 千本となり、当初計画比 197%となった。

② いちご

総合農試より親苗(さがほのか)を導入し、6,330 鉢を供給し、供給金額は 2,574 千円であったが、需要の減少により、供給金額ベースで、当初計画比 79%、前年度実績比 81%と減収した。

③ らっきょう

当センターで増殖した「らくだ」の種球(原種)を採種農家(宮崎市田野町)へ供給し、種球の委託生産を行った。供給数量は 1,957 kgで、供給金額は 1,327 千円であり、需要の減少により、供給金額ベースで、当初計画比 79%、前年度実績比 86%となった。

④ ランキュラス

「キイ」等の 13 品種の培養苗及びかぎ芽苗を生産し、3,396 本(鉢)を供給した。供給金額は 807 千円であり、供給金額ベースで、当初計画比 85%、前年度実績比 110%となり、計画数量には達しなかったが、前年度実績は上回った。

(3) 優良種苗供給体制整備事業

優良種苗の安定生産技術の確立に向けた試験・実証等について、4品目で実施した。

① かんしょ苗の安定生産技術の確立

- ・センター生産・出荷の全品種について、現地栽培を行い、生育及び芋の形質等に異常はなく、問題がないことを確認した。
- ・難防除害虫であるナジミ類の防除対策として、薬剤の効果試験(5系統)を実施し、ナジミ系薬剤等の高い防除効果を確認するとともに、系統別の防除効果を参考に、防除体系に活かしていく。
- ・硬度の高いセンター圃場の土壌改良対策として、有機物の連用試験を実施した。
- ・採苗本数の増加のため、1株植付本数を検討し、現行の1穴1本植え(10cm×10cm)に対し、1穴2本植えで、採苗数が増加し、苗質も問題ないことを確認した。
- ・培養苗を赤青LED照明下で2週間順化育苗した場合、生育、発根状況が良好となり、生育促進効果について確認したので、刈苗増殖段階での生育促進効果を検討する。
- ・夏場の刈育苗時の高温対策のため、夜冷ハウス内でのミストを利用した育苗方法を検討したが効果は判然としなかったため、継続検討する。

② ヒーマン台木の採種技術の確立

- ・「みやざき台木5号」の着果促進対策として、誘引枝を増やして子房親の樹勢を抑える誘引方法について検討中である。
- ・省力栽培の一つであるバック栽培に適した床土と栽培期間について検討中である。
- ・着果率及び採種量の向上を目的に、受粉量を確保するため交配方法について検討中である。

③ ナンキュウスの優良種苗の安定生産技術の確立

- ・刈苗の順化時の2週間、LED照明下での育苗した場合、白色LED照明が苗の品質向上に繋がりと、赤青LED照明は発根の促進効果があると思われた。
- ・かぎ芽苗では異形質発生回避として、生産培養苗の変異発生程度について調査中である。
- ・掘り上げ後の球根洗浄方法については、バケルから水を噴出させて土を除去する方法が作業時間の短縮及び球根へのダメージが少ないことが確認された。

④ 耐暑性りんどう

- ・培養増殖時における照明時間を24時間にした場合、現行の16時間照明に比較し、地上部生育や発根の促進効果は確認できなかった。

(4) 優良系統・品種の親株保存管理

- ① 県育成品種で、現在普及中の品種・系統及び遺伝資源としての利用の可能性のある品種・系統を将来の活用に備え、保存・管理しており、令和6年4月1日に、野菜2品目4品種、いも類1品目4品種、花き4品目32品種で保存管理を開始した。

- ② 期間中、今後品種の普及及び利用が見込めない、いちご2品種、らっきょう1系統・ナンキュウス6品種の計9品種及び系統について廃棄した。

品目	廃棄した品種・系統
いちご	とよのか、こいはるか
らっきょう	らくだ丸1A
ナンキュウス	ラズベリル、サンキュウスシュガー、モロッコ白①、モロッコクリーム、ちほの詩、オレンジ夏洛ット

- ③ 期間中、いも類かんしょの4品種の保存を追加した。

品目	追加した品種・系統
かんしょ	アヤマサキ、ムササキマサリ、高系14号0-18H①-12、高系14号0-18H①-3-3、みちしずく

(4) 令和7年3月末での各品目・品種の保存本数は表のとおり、野菜2品目2品種、いも類1品目8品種、花き4品目26品種の見込みである。

作 目	NO.	品 目	品 種	導入先	導入年次	保存形態	保存管理場所	保存本数	移植時期間隔	備考
野菜	1	いちご	みやざき なつはるか	総合農試	平成25年	培養苗	培養室	15	90日	
	2	らっきょう	らくだ (長1B)	都城市	平成5年	培養苗	培養室	10	90日	
いも類	1	かんしょ	宮崎紅 (A-3)	総合農試	令和6年	培養苗	培養室	15	80日	
			宮崎紅 (0-61)	総合農試	令和6年	培養苗	培養室	10	80日	
	2		コガネカン	総合農試	令和元年	培養苗	培養室	33	80日	
	3		コガネサリ	総合農試	令和元年	培養苗	培養室	14	80日	
	4		タマカネ	総合農試	令和3年	培養苗	培養室	10	80日	
	5		ムラサキサリ	総合農試	令和6年	培養苗	培養室	15	80日	今年度追加
	6		アヤマサキ	総合農試	令和6年	培養苗	培養室	15	80日	今年度追加
	7		高系14号 (0-18H①-12)	総合農試	令和6年	培養苗	培養室	35	80日	今年度追加
			高系14号 (0-18H①-3-3)	総合農試	令和6年	培養苗	培養室	35	80日	今年度追加
	8		みちしずく	総合農試	令和6年	培養苗	培養室	10	80日	今年度追加

作 目	NO.	品 目	品 種	導入先	導入年次	保存形態	保存管理 場所	保存 本数	移植時 期間隔	備考
花 き	1	デ・ルフィニウム	AS (ペガ花粉親)	総合農試	平成18年	培養苗	培養室	10	30日	
	2	ランキウス	カーネット	総合農試	令和4年	培養苗	培養室	10	60日	
	3		ローズクォーツ	総合農試	令和2年	培養苗	培養室	10	60日	
	4		サンキウス・ オレンジ	総合農試	平成22年	培養苗	培養室	20	60日	
	5		サンキウス・ ホワイト	総合農試	平成22年	培養苗	培養室	10	60日	
	6		サンキウス・ パールピンク	総合農試	令和4年	培養苗	培養室	13	60日	
	7		フェアラン	綾町	平成27年	培養苗	培養室	20	60日	
	8		ホームロー	綾町	平成29年	培養苗	培養室	18	60日	
	9		キティラ	綾町	平成29年	培養苗	培養室	20	60日	
	10		デ・イニ	綾町	平成29年	培養苗	培養室	15	60日	
	11		サンキウス・ ピュアホワイト	総合農試	令和4年	培養苗	培養室	10	60日	
	12		モロッコ赤①	総合農試	令和4年	培養苗	培養室	10	60日	
	13		モロッコパール①	総合農試	令和4年	培養苗	培養室	10	60日	
	14		モロッコパール③	総合農試	令和4年	培養苗	培養室	10	60日	
	15		モロッコ白ピンク②	総合農試	令和4年	培養苗	培養室	10	60日	
	16		モロッコ白ピンク①	総合農試	令和5年	培養苗	培養室	10	60日	
	17		モロッコ白②	総合農試	令和5年	培養苗	培養室	15	60日	
	18		モロッコ赤②	総合農試	令和5年	培養苗	培養室	10	60日	
	19		モロッコ茶オレンジ	総合農試	令和5年	培養苗	培養室	10	60日	
	20		モロッコ黄	総合農試	令和5年	培養苗	培養室	10	60日	
	21	耐暑性 りんどう	M1-19	総合農試	令和5年	培養苗	培養室	10	60日	
	22		M2-8	総合農試	令和5年	培養苗	培養室	10	60日	
	23		M2-16	総合農試	令和5年	培養苗	培養室	10	60日	
	24	スプレー カーネーション	ローロ	綾町	平成19年	鉢苗	ビニールハウス	15	1年	
	25		ローレット	総合農試	平成19年	鉢苗	ビニールハウス	15	1年	
	26		ローピンク	総合農試	平成19年	鉢苗	ビニールハウス	15	1年	

2) 野菜苗の受託育苗及び花きの球根生産(収益事業)

ハウス施設の遊休期間(7～10月)の野菜苗(ピーマン、ナス、キュウリ)の受託育苗を行い、受託本数は36千鉢、受託金額は2,081千円となった。かんしょ苗の増殖の早進化に伴い、ハウス利用計画の見直しにより、受託本数は減少し、受託金額ベースで、当初計画比49%、前年度実績比54%となった。

また、ランキウス(PONPONシリーズ)の球根の受託生産(5品種、JAこばやし等出荷)に取組み、受託球数は4,110球、受託金額は951千円となった。需要の減少の影響で、受託金額ベースで、当初計画比82%、前年度実績比96%となった。

(別表-1) 任期満了に伴う役員改選について

1. 内容

1) 理事

現 職			改 選	
(令和4年6月定時総会～令和6年6月定時総会)		備 考	(令和6年6月定時総会～令和8年6月定時総会)	
氏 名	勤務先役職名		氏 名	勤務先役職名
坂下 栄次	経済連代表理事会長	会長理事	坂下 栄次	JAみやざき副組合長
久保 昌広	前県農政水産部長	副会長理事	殿所 大明	県農政水産部長
林 嘉孝	バイテクセンター所長	常務理事	林 嘉孝	バイテクセンター所長
東 洋一郎	前県総合農業試験場長		松田 義信	県総合農業試験場長
伊東 功一	西都市農林課長		伊東 功一	西都市農林課長
佐藤 峰史	高千穂町農林振興課長		佐藤 峰史	高千穂町農林振興課長
有田 秀明	JAみやざき宮崎中央地区本部長		有田 秀明	JAみやざき宮崎中央地区本部

2) 監事

現 職			改 選	
(令和4年6月定時総会～令和6年6月定時総会)		備 考	(令和6年6月定時総会～令和8年6月定時総会)	
氏 名	勤務先役職名		氏 名	勤務先役職名
田丸 浩	経済連常勤監事		田丸 浩	JAみやざき常勤監事
島村 幸広	前宮崎市農政部長		小野 幸治	宮崎市農政部長

(別表-2) 役付理事の選定について

1. 内容

	理 事	
役 職	(令和6年6月 第2回理事会～令和8年6月 定時総会)	
	氏 名	勤務先役職名
会長理事	坂下 栄次	JAみやざき副組合長
副会長理事	殿所 大明	宮崎県農政水産部長
常務理事	林 嘉孝	バイテクセンター所長